

令和 5 年度 現地研修会を開催

はじめに

道北技術士委員会は、令和 5 年 10 月 17 日に現地研修会を開催しました。現地研修会は、コロナ禍のため令和 2 年から令和 4 年まで開催を中止しておりましたが、今回 4 年ぶりに開催する運びとなり、総勢 21 名が参加して上川支庁管内の鞆工場やダム施設、酒造施設など、多岐にわたる分野の施設を見学しました。

以下にその概要を紹介します。

日時：令和 5 年 10 月 17 日(火) 8:30 ~ 17:00

場所：①エースラゲージ(株)北海道赤平工場
(赤平市)

②滝里ダム(芦別市)

③土の館(上富良野市)

④三千櫻酒造(株)(東川町)

1. エースラゲージ(株)北海道赤平工場

誰もが知っている「ACE」のスーツケースは、信頼の Made In Japan ブランドとして、たくさんの方が利用している人気の製品であり、赤平工場はその ACE のスーツケース生産が日本で最大の工場、年間 9 ~ 10 万本の製品を製造しています。同工場はもともと神奈川県の小田原市で 1960 年に操業を開始しましたが、1971 年に赤平市に移転しました。

広大な工場内には、製品ごとの製造ラインが設けられ、スーツケースが作られていく製造工程を見ることができました。製造は機械化された工程と人の手で組み上げていく工程があり、一つ一つ丁寧に組み立てられていることを拝見しました。

同社では、今年から強化段ボール製品の開発を開始し、JR 東海の新幹線とコラボレートして、座席のシートや窓ガラスのリサイクル品と強化段ボールを

組み合わせた椅子やテーブルの製品を製造しています。工場内は資材がきれいに整理整頓されて、清掃も行き届いていることが印象的でした。



写真-1 強化段ボールと新幹線のコラボレート製品

2. 滝里ダム

石狩川水系空知川の中流に建設された滝里ダムは、平成 12 年から管理が開始された重力式コンクリートダムで、堤高 50m、堤長 455m、総貯水容量は 1 億 800 万 m³ を誇るダムです。

最初にダム管理所内に案内していただき、園山支所長から滝里ダムの概要や目的、設備などを説明していただきました。ダムの防災操作に関する説明では、空知川上流に位置している金山ダムと常に連携を取っていること、平成 28 年の北海道豪雨災害時には管理開始以降、最大流入量となる洪水に対する防災操作を実施したことを伺い、北海道各地に甚大な被害をもたらした当時の記憶が蘇りました。

管理所内の管理設備を見学後、ダム内の監査廊に入り、常用洪水吐に設置されている 6 門の巨大なラジアルゲートを間近で見学し、迫力あるダム設備を体験することができました。



写真-2 滝里ダムの概要を説明される園山支所長

3. 土の館

土の館は、農業用プラウ分野で国内トップクラスの製造・販売実績を誇るスガノ農機(株)が運営する施設で、「北海道遺産」「機械遺産」の2つの遺産に認定され、さらに「重要科学技術資料」に認定された2台のプラウを展示している日本唯一の土の博物館です。施設は本館のほかに、トラクタ館とプラウ館が別棟で建てられており、見どころ満載の施設です。本館には、大正15年の十勝岳大爆発で発生した泥流大災害の地層がわかる土壌標本(モノリス)が展示され、強酸性で死の土と呼ばれた泥流の土地を何とか蘇えらせようと、当時の農家の方たちが客土を繰り返し現地の素晴らしい農地に作り変えたことが、モノリスから伝わりました。ほかにも全国50箇所のモノリスが展示されており、興味深く見学しました。



写真-3 土の館見学風景

トラクタ館には、総勢72台の世界のクラシック

トラクタが展示されており、歴史的な機械遺産が存分に見学できる素晴らしい施設でした。

4. 三千櫻酒造(株)

三千櫻酒造は、岐阜県中津川市の地で明治10年に創業し、146年の歴史を持つ酒蔵です。令和元年、東川町が全国でも珍しい「公設民営型」という形態で酒蔵の誘致を行い、そこに名乗りを上げたのが同酒造でした。公設民営型とは、酒蔵としてのハードは公の町が用意し、酒造りのソフト部分は、民間の酒蔵が行う方式です。

酒造を見学するため、1週間前から納豆やキムチ等の発酵食品の摂取を控えるよう事前にアナウンスがありました。見学当日、酒蔵の社員の方へ納豆について尋ねると、納豆菌は酵母菌に比べて強い菌のため、酒の仕込みが始まるとすべての社員は一切口にしないとのことで、酒造りのデリケートな一面を知りました。見学時は、7つの巨大なタンクにもろみが満たされた状態で、ぷつぷつともろみが発酵している様子が見て取れました。酒造りは低温を保つことが重要とのことで13℃以下の管理をしているそうです。東川の米と水で作られたとても美味しい日本酒を、これからも愛飲したいと思います。



写真-4 三千櫻酒造

5. おわりに

4年ぶりに開催された現地研修会は、バラエティに富んだ施設を巡り、とても有意義な時間を過ごすことができました。今回見学させていただいた各箇所では、大変丁寧かつ詳しい説明をいただきました。本誌をお借りし、心から御礼申し上げます。